

「新旧体育館—1台の卓球台—の思い出」

26期 向井宗子（旧姓関原）

運動音痴の私が卓球部に入ったのは、先輩方が素敵だったからです。1学年違うだけなのに卓球の技術の素晴らしさは勿論（同じフォームで百回以上のラリーには目を見張りました！！ 都大会でもベスト8に入られたと思います）、人間的にもすごく大人で憧れの存在でした。そして何より、下手な私にも優しく接して下さったことが一番嬉しかったです。

偉大な先輩と言えば、今も「荻村杯」に名を残す荻村伊智朗氏です。十中、西高、30周年、新しい体育館の開館式に、全日本の選手を連れて来られ、模範演技ののち、ご自身の体験を語って下さいました。

“穴のあいた体育館”で“卓球台は一台”の十中時代、都立大に入学後、卓球のために日大に変わられ、世界選手権で12個の金メダルを獲得された事、長く日本の卓球界を牽引され、“ピンポン外交”で中国国交正常化にも貢献された偉大な方でありながら、夏合宿で西高会館に来て下さった事、卓球を始めたのは十中に入ってからとの事、これらは今でも私達のお手本となる事でしょう。

今年は没後20年、改めて偉大な先輩に畏敬の念を抱いています。